



トナカイを放牧するエベンの少年

サハ以外の北方先住民

サハ共和国には、サハ(ヤクート)以外にもエベン、エペンキ、チュクチ、ユカギールなどさまざまな先住民が暮らしています。彼らはそれぞれ狩猟やトナカイ放牧を生業とし、おもに共和国の北部や山岳地域などで生活してきました。



トナカイ騎乗用鞍(エベン)



山岳地域の景観

観覧料	特別展	常設展	セット割引
一般	450(300)円	450(360)円	700(660)円
65歳以上	300円	無料	—
高大生	150(120)円	150(120)円	240(240)円

※()内は10名以上の団体料金



女性用帽子(サハ)

◆北海道立北方民族博物館 財団法人北方文化振興協会(指定管理者)
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1(道立オホーツク公園内)
TEL0152-45-3888/FAX0152-45-3889 <http://hoppohm.org>

北海道立北方民族博物館 第27回特別展
Hokkaido Museum of Northern Peoples

東シベリア・サハ 永久凍土の 大地に生きる

Sakha Republic, Eastern Siberia — Living on Permafrost

開催期間 2012年7.14(土)~10.14(日)
[10.1(月), 9(火)は休館]

開館時間 9:00~17:00 [10月は9:30~16:30]

主催 北海道立北方民族博物館
(指定管理者 財団法人北方文化振興協会)

協力 国立ヤクート北方民族歴史・文化博物館
総合地球環境学研究所シベリアプロジェクト
日本口琴協会 直川礼緒氏 高倉浩樹氏 堀咲子氏
池田カナ子氏 針生幸子氏 U.ウンダール氏

東シベリア・サハ 永久凍土の大地に生きる

北半球の寒極

サハ共和国は、日本の約8倍という広大な面積を持つロシア連邦内の共和国です。その内陸部は、冬の気温が -50°C を下回ることも珍しくなく、北半球の寒極と呼ばれるほどです。

この特別展では、サハ（ヤクート）民族を中心に、サハ共和国で暮らしてきた人びとの文化を紹介します。



タイガ（北方針葉樹林）のなかに点在するアラス
（撮影：楡山哲哉氏）

永久凍土の大地

サハ共和国のほぼ全域が、年間を通じて土や岩が凍った状態にある「永久凍土」帯に含まれます。

永久凍土と言えば、冷凍保存されたマンモスの遺体が出土することでも知られていますが、この凍土層の存在が、サハ共和国を代表する景観であるタイガ（北方針葉樹林）やアラス（凍土の融解によって生じる窪地）を形成する基盤となっています。



男性用衣類と手袋（サハ）



冬の馬群（撮影：池田カナ子氏）



ウマ騎乗用鞍（サハ）

ウマ用飾り布（サハ）



牧畜の民

サハは、伝統的な生業として、ウマやウシの牧畜を営んできました。

ウマはサハの伝統文化を象徴する存在です。17世紀のロシアの記録に、サハはしばしば「馬の人びと」として登場します。現在のサハ共和国の紋章もウマに騎乗した人の姿が象られたものです。

また、ウシは、特に19世紀以降は牧畜の中心的な役割を果たしてきました。

ウマの乳は馬乳酒（クミス）に、ウシの乳はクリームやバターなどの乳製品に加工され、利用されてきました。また、ウマ、ウシともに重要な移動輸送手段として使役されてきました。

馬乳酒祭

夏至の頃、サハ共和国では神々を讃える馬乳酒祭が催されます。ソ連時代、馬乳酒祭が禁止されたこともありましたが、現在は各地で、さまざまな規模の馬乳酒祭がおこなわれています。

馬乳酒祭では、神に馬乳酒「クミス」が捧げられた後、参加した人びともふるまわれます。馬乳酒を注ぐためのひしゃくや馬乳酒を飲むための特別な杯「チョローン」には、サハの特徴的な文様が刻まれています。

祭に参加する人びとは、華やかな衣装やアクセサリーで着飾り、歌や口琴の演奏、ダンス、ゲーム、競馬などの競技を楽しみます。



女性用正装（サハ）



馬乳酒用ひしゃくと杯（サハ）